

	1グループ	2グループ	3グループ	（参加者アンケート）
記録用紙	（今のよいこと） ・地域のつながりが強い。 ・待機児童がいないということ。 ・ひととおりの程度そろっている。 ・公園の多さ。自然が豊か。 （こんな風にしたい） ・スポーツ施設に関して、プール、道場がない。体育館が欲しい。全国大会ができる施設があればよい。 ・市役所窓口の案内の仕方の改善。サポート ・情報提供の充実 ・市のHPが見にくい ・住民異動したときなどに、ゴミ、子育てなど（保育、学校）の情報、冊子があればよい。 （不足点・改善すべき点） ・転居されて住民になられた子育て世帯に保育に関する情報が伝わっていない ・障害への気配り。 ・発達障害に関する理解が足りない。 ・子育てのサポート情報がとれない ・スポ少などの小学校のスポーツ活動へのアプローチが少ない ・ボランティア、市民活動への支援がない。 ・保育料三人目以降の支援。 ・学校備品が公平でないかも ・放課後児童教室が学校ごとにルールが違う。最低のルールは統一してほしい ・市にお金がない ・特色がない ・子供の費用のサポート ・情報をしっかりと伝えて、子育てに反映すると。そういうところで羽島市も頑張してほしい。	特色ある教育 まちの発展に 多様な学びの場、活動 （学校） ・教員の働き方 ・学校相談員 相談体制 ・全教職員が対応できるように、研修の強化を！ ・ママ同士の相談、コミュニティ （部活動、スポーツ） ・指導者、協力者 ・勝つこと競技力向上 ・部活動の種類が少ない ・スポ少の見直し ・スポーツ親しむ、友達と楽しむ ・地域スポーツの活性化 平日3日が部活 → 平日の活動 休日はクラブチーム → 試合に出られる ・スポーツ保険や所属の問題 ・指導者となる教員の働き方 →部活が大変なのではなく、部活以外が大変だから部活も大変（手当もない） できるなら中学校の先生が延長でやるのがベスト、ただし余裕がない。 ・部活以外にもやりたいことがある ・スポーツの成績、大人目線で考えすぎではないか ・学校部活動が目指すものは ・多様性のあるスポーツ施設、・市民プール （学校以外） ・不登校→原因はなに ・フリースクール、気軽に通える、1つの選択肢 ・卒業後の進路は ・学校と塾の関係、塾によらない学習	意見交換のきっかけ ○子供のアレルギーに関して ・ペンニードルなどの使用は教員でも使用に勇気が必要 ・生まれてすぐにアレルギーの検査はないため各個人のアレルギーの把握はむづかしい これから展開していった課題 ○専門家の力（看護の力等）が必要 ・医療従事者（看護師労等）の学校への出入り（配置）ができるとよい ・気楽にサポートを頼める環境が必要→シルバー人材で経験者の力を借りる（コミュニティに力を借りる） ・教員の負担が大きく、教員側のストレスを減らす手助けが必要 ・教員の話を聞けない、言うことを聞けない生徒が増えている→コロナ禍でコミュニケーションを学ぶ場の喪失→ 教師だけの問題ではない→専門家のサポートが必要 ○教員が忙しすぎる ・教員が教師という仕事に夢を持てない環境になっている ・教員に対する経済的な支援が必要（賃金等）→有能な人材が教員にならない→なりて不足 ・教員、保護者、児童生徒の三者間での連携が必要→一つ欠けるとうまくいかない ・幼・保・小の連携が重要 ○家庭環境の問題 ・親と子のコミュニケーションが取れていない→親が子供とのかかわり方がわからない→保護者のケアが必要 ○相対的なコミュニケーション不足 ・自治会との連携がなくなっている→コミュニケーションを学ぶ場の減少 ・人に協力を求めにくい社会→仲間（コミュニティ）の創出必要なのでは。 ・子供たちの間でもマウントの取り合いになっている→子供のたちの間でもコミュニケーションが取れていない→	・議会だよりでマスキリーニングやインクルーシブなどわからない言語を分かりやすくしてほしい。意見交換会参加申込書をキリトリと裏面がなくなるので困るなどもっと考えてほしい。給食費の件、以前ニュースで全国平均より1000円高かった気がしました ・羽島市はPRが少ないと思うので、もっとどどんどんいろんなことをPRしてほしい。発達障害の子に対して、もう少し理解してあげてほしい ・教育大事だと思う。 ・根本の理由…私は食生活が土台だと思っています。グリーゾーンや落ち着けない子、知的障害など、ミネラル不足だと聞いています。大阪の泉大津市の市長さんは、オーガニック給食を施行し、農家の方も子供たちも同様に支えられています。対処療法ではなく、根本治療を考えていってほしいです。 ・今日は思ってい

			教員が生徒を育てにくい状況になっている(コロナ禍の影響大)→教員のストレスにつながっている→教員の 人員不足→指導するのではなく認めること、心を開くことが重要→責めてはいけない→そのような場所が必要 ○自治会(地域)との連携について ・自治会 OB も含めた連携→任期等により引継ぎができていない(なりて不足)→コミュニティスクールの充実を。 まとめ ○教員・保護者・児童生徒の3者をサポートする必要がある ・気軽にサポートを呼べる環境(場所)作り ・専門家の力を借りられる環境の整備 ・看護師の派遣・配置 ・シルバー人材から経験者の知見を借りる ○自治会(地域)との連携が必要 ・コミュニティスクールの充実 ・今の児童生徒が求める楽しみの創出(Eスポーツ大会など内容と空気感が大事)	ることを、思うようにお話 できました。大変良い話し合いの場に参加させていただき、ありがとうございました。 ・色々な意見が聞けてよかったです。 ・今回初めて参加し、たくさんの意見が出ましたので、これからの子育てに参考にしていきたいと思います。市議会議員の先生方に、子育ては党派、会派に関係ないと思いますので、18名の団結を望みます。 ・今回初めての参加でしたが、とても貴重な時間となりました。いろんな方がみえていることもあり、視点が違うことで、普段聞けない話が聞けることは、すごく良いことだなと感じました。でも、今回「子育て環境の充実」といったテーマが幅広く、全然時間が足らなかったように思います。思っていることを話したい伝えたい、と集まってみえるので、ヒートアップもします。 あとは、この「子育て」を今されている若い年代の方の困っていること、いいなと思っていることが聞ける場になるといいなと感じました。なかなか意
--	--	--	--	--

				見交換といわれると、尻込みすることもあるので、もう少し参加しやすい窓口も必要なのかなと思います。 今日の話の中で、どうしても教育のことになるとどんどん話がふくれていき、子育てだけどズレていくことを感じました。「教育について」というテーマだったり、子供に関することになると、的をしぼったテーマだと、参加しやすいかもしれません。
対応方針	○「子育ての情報については、市民毎に欲しい内容や欲しい時期が大きく異なる中、それぞれの市民のニーズに応じた情報提供がスムーズに実現できない」という課題については、情報発信や子育て支援を、乳児・幼児・児童・生徒などの年代や、障がい・生活苦・話し相手・健康などの支援分野によって縦割り組織の下で対応するのではなく、一つの組織に統合してそこがすべてを担当するように組織を改編する。 ○行政が行っている施策の周知の徹底 ○子育て世代の市民の皆さんに情報が届いていないことが分かった。これまでのホームページや広報紙だけでなく、電子媒体や SNS を使った情報提供も検討するべきである。 ○すべてにコミュニティ不足である。不登校、家庭の問題、部活すべて対面对話不足と考える 3グループのまとめのとおりである ○教員・保護者・児童生徒の3者をサポートする必要がある ・気軽にサポートを呼べる環境(場所)作り ・専門家の力を借りられる環境の整備 ・看護師の派遣・配置 ・シルバー人材から経験者の知見を借りる	○PTAと市議会の意見交換会を実施し、保護者、教員のそれぞれの立場からの現状分析と課題、その課題の背景などを、専門家の知見を得ながら深く分析する。 ○教員の働き方改善 ○部活動とクラブチームの連携の強化 ○部活動やスポーツに関心が高く、多様な子育て、子供への期待が感じられる。休日の学校運動場の開放も考えてはどうか。 ○すべてにコミュニティ不足である。不登校、家庭の問題、部活すべて対面对話不足と考える	○PTAと市議会の意見交換会を実施し、保護者、教員のそれぞれの立場からの現状分析と課題、その課題の背景などを、専門家の知見を得ながら深く分析する。 学校医の責任範囲の明確化 給食指導の教員負担の軽減(教員の勤務を離れた昼食時間や昼休み時間の確保) ○教員の働き方改善 ・専門家によるサポートの充実 ○地域コミュニティとの連携強化 ・コミュニティスクールの充実 幅広い年代層からの委員の選出 地域・保護者へのさらなる啓発 地域活性化に対する支援 学校運営協議会の機能の強化 ○児童のアレルギー対策の重要性が分かった。教職員の負担軽減、働き改革、モンスターペアレント対策も急務。 民文で視察した地域が学校に関わる必要性も再認識した ○すべてにコミュニティ不足である。不登校、家庭の問題、部活すべて対面对話不足と考える	○子育て真っ盛りの方々は、乳児・幼児の預かりがないので参加できないとのこと。教育ではなく、乳児や幼児の子育ての話題を取り上げるためには、乳児・幼児の預かり対応が必要。

	○自治会（地域）との連携が必要 ・コミュニティスクールの充実 ・今の児童生徒が求める楽しみの創出（E スポーツ大会など内容と空気感が大事）			
--	---	--	--	--